

2021 年度実施概要

学校名

柳井市立伊陸小学校

採択活動名

ICT 活用による持続可能な未来の海へ

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 事前学習	5, 6	総合的な学習の時間
2. 「海に親しむ」	5, 6	総合的な学習の時間
3. 「海を守る」	5, 6	総合的な学習の時間
4. 「海を知る」「海を利用する」	5, 6	総合的な学習の時間
5. 「海を守る」	5, 6	総合的な学習の時間
6. 発表会	5, 6	総合的な学習の時間

取り組みの概要

<事前学習>

和歌山市在住の講師から、昨年度のオンライン発表会を振り返り、海洋教育パイオニアスクールに全国の児童達が行き組んでいる事などの説明を受け、今年度実施する海の学習内容についての予習を行った。

<1回目の授業>

大島瀬戸の沿岸（昨年と同じ場所）に行き、水族館飼育学芸員を講師に、磯に住む各種生物を観察することで「海に親しみ」、魚貝類や海藻類を生物指標として付近海域の水質と豊かさを判定する学習を行った。

判定結果を昨年と比較することで時間的変化を知る事も出来た。

<2回目の授業>

柳井海上保安署へ出向いて、海上保安庁の業務説明を受けたのちに、巡視艇「くがかぜ」を見学した。業務説明では救難、防災、環境、交通、警備など幅広い仕事の内容説明に、初めて海の仕事の一旦を知ることとなった。また、海上保安官になるための方法も知り将来の進路の一つとしての、漠然とした思いが芽生えた児童もいた。巡視艇の船内見学ではいろいろな航海計器の仕組みを学び、自らの安全を確保しながら、救助活動をする事の重要性を学んだ。

<3回目の授業>

大島商船高等専門学校の協力のもと、回流水槽実験装置を見学し、水流の変化により模型のコンテナ船がどのように影響を受けるかを上下左右のあらゆる角度から



観察することができた。続いて、停泊中の練習船において航海士から操船の仕方や船の仕組みなどについて聴講した。次に、実習船に乗船し大畠瀬戸で潮流を体感しエネルギーの利用について考察した。

< 4 回目の授業 >

柳井市内の砂浜海岸（昨年と同じ場所）へ行き、県環境アドバイザーを講師に、付近の川のごみの状態を見学し、次に砂浜に移動して 5 m 四方の 2 区域について、漂着した各種のごみを拾い集めてゴミの種類を調べた。その結果、生活で使用したプラスチックごみの多さを体感した。次に、砂の中のマイクロプラスチックを見つけ出し、これが生物へ悪影響をもたらす事を知り、普段の生活環境でのプラスチック製品について考え、最後に海浜清掃も実施した。また、海洋教育を全校児童に浸透させるよう、持ち帰ったプラゴミによる工作を行った。

< 発表会 >

事前授業と 4 回の校外学習で得た知識をまとめたうえで、和歌山市の小学校とオンラインで発表会を開催した。他校の児童にいかにもうまく表現してこれまでの学習内容を伝える事ができるかを工夫した。今年は市内の教育関係者の公開授業にも充てられたため、先進的な学習内容を児童だけでなくこれらの関係者にも発表する事ができた。最後に、発表内容を聞いてもらった大学の先生から、海の学習をすることで環境問題への取組みなど幅広い知識を習得できたとの講評があった。

また後日、和歌山県楠見西小学校から山口県のゴミの種類や問題について質問があった。その回答のため、2月7日(月)に第2回発表会を追加開催し、お互いの学びを深化・拡充して今年度のまとめを行った。

